

第1178号

AFN-1178

# Timely

1994年1月17日創刊 毎週発行  
葵総合経営センターだより週刊版

H29. 7 / 24 (月)

## 『2017年分路線価は2年連続で上昇 銀座「鳩居堂前」が32年連続1位』

全国の国税局・税務署において7月3日、相続税や贈与税の土地等の課税評価額の基準となる2017年分の路線価及び評価倍率が公表された。今年1月1日時点の全国約32万5千地点(継続地点)における標準宅地の前年比の変動率の平均は+0.4%(昨年+0.2%)と、2年連続の上昇となった。

路線価日本一は、32年連続1位となる東京・銀座「鳩居堂前」(1平米4032万円)で、過去最高だったバブル直後の1992年(3650万円)を上回った。

都道府県別の路線価をみると、標準宅地の評価基準額の対前年変動率の平均値の上昇率が「5%未満」の都道府県は、昨年分の1都2府11県から1都2府10県の計13都府県に減った。下落率が「5%未満」の都道府県は昨年の33道県から32道県に減少し、下落率が「5%以上」の都道府県は昨年引き続きゼロとなった。ちなみに、東京は+3.2%(前年分+2.9%)、大阪は+1.2%(同+1.0%)。

一方、都道府県庁所在都市の最高路線価が上昇した都市は27都市(昨年25都市)、横ばいは16都市(同17都市)で、下落は3都市(同5都市)に減少。このうち上昇率「5%以上」は14都市(同15都市)に、また、上昇率「5%未満」は13都市(同10都市)だった。

上昇要因には、都市部での再開発や不動産向け投資が拡大したことや、訪日外国人の増加を見込んだ店舗・ホテル需要の高まりなどがあるとみられている。

## 『協会けんぽの決算見込み 被保険者増が収支に貢献』

全国健康保険協会は、平成28年度における協会けんぽの決算見込み(医療分)について公表した。資料によると、平成28年度は収入総額9兆6,220億円に対し、支出総額は9兆1,233億円になる見込みとなっている。収支は4,987億円の黒字となった。収入総額は対前年度から3,802億円増えている。これは、保険料収入が3,681億円増加したことが主な要因だ。中小企業の加入者が多い協会けんぽでは、景気低迷による給与の伸び悩みや社会保険の加入逃れ等により、保険料収入の増加が見込めず、それが収支悪化の原因となっていた。しかし、**ここ数年来続いている年金事務所による社会保険未加入企業の加入促進活動が功を奏したようで、協会けんぽの被保険者数は対前年度比3.5%増加となった。また、同時に被保険者の標準報酬月額も同1.1%増加したため、保険料収入が増加したようだ。**

協会けんぽの被保険者数は、平成25年度に対前年度比1.8%増、26年度は2.5%増、27年度は3.2%増となっており、22年度から被保険者数増が続いている。平成20年10月末時点との比較では、29年3月末時点で加入事業所数24.5%増、被保険者数は13.0%増となった。



21世紀を創造する中小企業のベストパートナー

〒460-0012 名古屋市中区千代田三丁目14番22号

## 葵総合経営センター

(葵総合税理士法人)

TEL : (052) 331-1768 FAX : (052) 332-5282

『Homepage』 <http://www.aoi-cms.com/> 『e-mail』 [aoi@aoi-cms.com](mailto:aoi@aoi-cms.com)